

研究報告書

活動先 NPO 法人 ゆめじろう

研究テーマ

一人一人に合ったコミュニケーションとは

研究目的

私たちにとってサービスマナーの中で一番印象に残っているものが、コミュニケーションの大切さを学んだことである。コミュニケーションは、人が何人もいるように、何通りもの方法がある。その重要さに気づくことが出来たので、今回学んだことを生かし、さらには深めていければいいと思い研究することにした。

研究方法

- ・ 私たちが関わった障害を持った方とのコミュニケーション方法について調べる
- ・ 実際に体験した事例を参考にコミュニケーションに関わる文献を調べる

研究内容・結果

1. コミュニケーションの重要性

その人に合わせた手段を用いて、コミュニケーション能力を高める。その方法は、話し言葉だけに限らず、文字や絵カード、写真、具体物などを使ってもいいのである。とにかく、人と意味を共有し、意思の伝達（やりとり）ができるということが大切である。言葉が話せるかどうかということより、コミュニケーションができるかどうかのほうが、より根本的で重要な問題だと考える。

2. 障害者の障害

ここでは、私たちが関わらせて頂いた方の障害について考えていきたいと思う。

(1) 広汎性発達障害

広汎性発達障害とは、広範囲に発達の遅れがあることであり、特に社会性やコミュニケーション能力行動の偏りに問題が見られることである。アスペルガー症候群も、自閉症も、広汎性発達障害である。また、広汎性発達障害は幅広い概念であり、トゥレット障害や小児期崩壊性障害など、自閉症以外の障害も含まれる。また、広汎性発達障害の子供たちは、いじめや虐待の被害に遭いやすい。その結果、心身反応とし不適応行動が現れたり、不登校や引きこもり、自殺行為など精神科的合併症などが生じやすい。

(2) 自閉症

i. 自閉症とは

自閉症とは、広汎性発達障害の一種である。脳機能の何らかの異常により、コミュニケーション能力や知的 (IQ) や認知に偏りをもつ発達障害のことを言う。診断名は知的 (IQ)

によって、高機能・中機能・低機能の3つのカテゴリーに分けられている。

ii. 定義

アメリカ精神医学による DSM によると 第一軸の「通常、幼児期、小児期、または青年期に初めて診断される障害」における広汎性発達障害 (pervasive developmental disorders) に位置づけられている。自閉性障害の基本的特徴は3歳位までに症状があらわれ、3つ組の障害を主とする行動の特徴がある。

iii. 歴史

1943年、アメリカの児童精神科医のレオ・カナーが早期幼児自閉症として報告されたのが最初と言われている。当然その障害自体は古くから存在していたと思われる。「聡明な容姿・常同行動・高い記憶力・機械操作の愛好」などの特異な症状をもつ11例の子供達を報告し、統合失調症の症状の状態を表す者を「自閉」【Autism (オーティズム)】と名付けたのが医学上の歴史の始まりになる。当時レオ・カナーは、自閉症の原因は後天的なもので、親の愛情不足による心因性の症状と考え、自閉症児の母親を冷蔵庫マザーと呼び、愛情を持って育てれば治癒する物と考えていた。また、レオ・カナーは自閉症児を統合失調症の幼児版であると考え、「小児分裂病」とも呼んでいた。自閉症児の親たちは冷蔵庫マザーのレッテルを貼られ、社会的な非難、自責の念、罪悪感に悩まされ、悲しいことに現代でも、この間違った解釈が少なからず社会に根付いている。また、70年代半ばに、精神科医が書いた「母原病」と言う本がベストセラーになった。子供の不登校、家庭内暴力などの精神的な原因は親にあると言う主張の本で、しつけ、過保護、愛情不足などを警鐘する内容である。病名ではなくあくまでも造語だが、「母原病」と言う言葉が一人歩きして、当時の多くの母親は子育てに対する自責の念に駆られたそうである。

70年代になりイギリスの医師、マイケル・ラター等により、「自閉症は、脳の発達に障害があつて起こるその結果、脳の働きに歪みが起こり特異な言語障害、見たり、聞いたり、触ったりした事の意味や理解したり、応用したりする概念、認知能力に障害が見られるこれらの事が基本にあつて人との関係ができにくかったり、強いこだわりや常同行動が出たり、等の特異な症状を示す。」と発表され、自閉症への大きな誤解は解かれるきっかけとなる。現在でも自閉症の原因は諸説あり確定できていないが、現在主流の認識合になっている。

(2) アスペルガー症候群

i. アスペルガー症候群とは

アスペルガー症候群とは、広汎性発達障害の一種である。脳機能の何らかの異常により、コミュニケーション能力や知的 (IQ) や認知に偏りをもつ自閉症と同じ特徴を持ちながら、言語能力に関する遅れが見られない場合の診断名である。また、一般的にアスペルガー症候群の知能指数 (IQ) の基準値は70以上、また場所によっては80~100以上と非常に高い数値が設定されている。そのため、高機能自閉症の一群とされている。また、知的に発達の遅れがなかったり、障害が軽微であり一面的に優れている部分があるため、幼少期に発達の問題が疑われにくい。そのため、周囲も気づかず対応の遅れや、友達から誤解されてし

まったりすることが多い。しかし、現代ではそのような子供が一般的に増えてきた傾向があるため、専門家の指導や治療を受けずに成長してしまい周囲からも孤立し、その苦しみを一人で抱えることで自閉症本来の諸問題を悪化させたり、増長させてしまうことが多い。

ii. 定義

大きく分けてアスペルガー症候群の定義は二つある。一つは、ローナ・ウィングらが提唱し、イギリスを中心にヨーロッパで主に使われているアスペルガー症候群の概念。もう一つは、DSM-IV や ICD-10 などの国際的な診断基準で定義されているアスペルガー症候群（これは ICD-10 の呼び方であり、DSM-IV ではアスペルガー性障害と呼ばれている。）の概念である。日本やアメリカでは、DSM-IV の考え方を採用する専門家もいます。ICD-10 や DSM-IV のアスペルガー症候群は認知・言語発達の遅れがないこと、コミュニケーションの障害がないこと、そして社会性の障害とこだわりがあることで定義されている。ローナ・ウィングの考えでは、アスペルガー症候群も3つ組の障害があることで定義されることから、当然コミュニケーションの障害も併せ持つことになる。そのため、同じ子どもが国際的な診断基準を適用すると自閉症であり、ローナ・ウィングの基準で考えるとアスペルガー症候群となることも少なくない。あるクリニックではアスペルガー症候群と診断された子どもが別の病院では自閉症と診断されることはありうることである。

iii. 歴史

アスペルガー症候群はハンス・アスペルガーというオーストリアの小児科医の名前にちなんでつけられた診断名である。ハンス・アスペルガーは1944年に「小児期の自閉的精神病質」という4例の子どもについての論文を発表した。また、この前年の1943年にレオ・カナーというアメリカの精神科医が早期乳幼児自閉症に関する論文を発表している。その後レオ・カナーの論文が、長く英語圏で影響を持つようになり、アスペルガーの論文は陰に隠れた存在だった。

英語圏で話題になるようになったのは、1981年にイギリスのローナ・ウィングという児童精神科医がアスペルガーの業績を紹介し、再評価したことがきっかけである。ローナ・ウィングは多数例の研究から、自閉症とは診断されていないが、社会性、コミュニケーション、想像力の3つ組の障害をもつ子どもたちがいることに気づいた。当時、自閉症という診断は、言語によるコミュニケーションが限定されており対人関心も非常に乏しい子どもにのみつけられおり、言葉によるコミュニケーションが可能であったり、一方的でも対人関心がある場合は自閉症とは考えられていなかった。ローナ・ウィングは、3つ組の障害を持っていながら自閉症と診断されない子どもたちの一部はアスペルガーの報告したケースに似ていることからアスペルガー症候群という診断が適切であるとした。そうして自閉症と同じような援助・教育の対象にしようとウィングは考えたのである。

1981年以降、アスペルガー症候群はしだいに注目されるようになり、国際的な診断基準である ICD-10（国連の世界保健機関による分類）やアメリカ精神医学会の診断基準（DSM-IV）にもアスペルガー症候群の概念は採用され、現在にいたっている。

(3)特徴

アスペルガー症候群や自閉症に見られる「3つ組の障害」について以下で説明していきたいと思う。

「3つ組の障害」

①想像力と創造性の問題

想像力や応用力を働かせた柔軟な対応が難しい、あるいは出来ない。予定外のことが起きてしまうと急に混乱してしまう。例えば、普段通らない道を通ると怖がってしまう。物事が予定通りに進まないと怒るなど。

②社会性の問題

対人関係を作るのが難しい、あるいは出来ない。友達を避けたり、初対面の人に親しく話しかけるなど、社会的な距離を掴めない。例えば、集団行動する場面で混乱してしまったり、友人に悪意なく面と向かって悪口を言ってしまうなど。

③コミュニケーションの問題

言葉は覚えるが正しく使っていくことが難しい。人の話を誤解したり、質問と違う答えを出す事が多い。例えば、質問してもその質問に答えず好き勝手話したり。場面に合わない丁寧な言葉を使うなど。

自閉症だけに見られる特徴

①多動・衝動性・不注意(AD/HD 症状)

自閉症状の為に落ち着きがなく注目できない子も多いが、中には「三つ組」の障害では説明のつかない不注意や多動・衝動性をもつ子もいる。

②感覚処理(聴覚・触覚・痛覚など五感)の過敏さと鈍感さ

③脳性麻痺などの運動障害や不器用、偏食、睡眠障害

④てんかんやチック、LD(読み書き障害、算数障害)の合併障害

アスペルガー症候群だけに見られる特徴

①様々な物に対し不器用

模倣能力の乏しさや、模倣するときの注目点が一般の子どもと異なることなどが関係している。そのため、動作がぎこちなく不器用である。

②音や光に敏感

音への敏感さがアスペルガー症候群の最初の兆候とも言われている。例えば、ちょっとした物音で不安がり泣いてしまったり、工事現場の騒音を嫌がって外出を拒否する、幼稚園の運動会のピストルの音でかんしゃくをおこしてしまうなどがある。これらは、コインで黒板などを擦ると「キーキー」と耐えがたい音がするのと同じような辛さを色々な音に

対して感じているようだ。

③味覚・臭覚・触覚に敏感

形や匂いにこだわり偏食であったり、香水や整髪料の匂いに敏感であったり、締め付けられることを嫌がり、ボタンが付いている服や、きついズボンを嫌がったりする事が見られる。

3. 障害者の障害に合わせたコミュニケーション

情報をうまく処理することができず、人とのコミュニケーションが難しいというのが、自閉症や、アスペルガー症候群を含む広汎性発達障害における一番の困難性である。コミュニケーションがうまく取れないということが原因となって、多くの二次的な問題が生じている。ですから、人との関係を重視し、コミュニケーションを支援するということがまず重要である。その人に合わせた手段を用いて、人と意味を共有し、意思の伝達（やりとり）ができるということが大切である。言葉が話せるかどうかということより、コミュニケーションができるかどうかのほうが、より根本的で重要な問題である。

(1) TEACCH プログラム

①TEACCH とは

Treatment and Education of Autistic and related Communication handicapped Children の頭文字をとった略語で、「自閉症および関連領域のコミュニケーションに障害をもつ子供たちの治療と教育」という意味である。

TEACCH は「自閉症やその周辺の発達障害を持つ児者に対する生涯にわたる包括的な援助システム」である。学習や生活する術を支援する治療教育法である。着替えや入浴などの家庭での生活習慣から、勉強や作業、趣味や余暇活動に至るまで、教育的な援助をし、社会での適応を目指していく。TEACCH の方法と目的は、まず弱点を補うように環境を整える。児者の適応性を上げる事によって、様々な技能を向上させる事を目指す。その結果、生活の困難を克服し安定して暮らせるような生活術を身に付けていく。言語能力が低いと、子どもとのコミュニケーションが上手いかず、本人の希望を理解するのが難しくなる。絵や図を使ってコミュニケーションをとる方が、意思の疎通がはかりやすい。言葉をうまく使えないので、複雑な言葉や言い回しは避けるようにしなければならない。分かりやすく、簡潔な言葉を用いて、コミュニケーションをとる必要がある。

〈基本理念〉

1. プログラムの最終的目標は自立である。
2. 自閉症の人達の特性を文化ととらえ共に生きる。
3. 共同治療者として親の立場・意見を尊重し、連携する。
4. 個別教育計画を作成し、生涯にわたって継続する一貫した総合的・包括的な援助を行う。
5. 自閉症の人達の特性や機能に合わせて環境の方を変更（構造化）し、構造化された教育を行なう。

6. 表に現われる問題行動よりも、根に有る認知障害を考慮した療育を行なう。
7. 自閉症の療育者は、特定の専門分野（医学、心理学、教育、社会福祉、行動療法、言語療法、作業療法）に偏らず、ジェネラリストとして詳しい知識を持ち、自閉症の人達をとりまくすべての問題を理解し、多領域の役割（行動管理、コミュニケーションスキル、社会生活上のスキル、余暇に関するスキル、職業訓練、自立訓練）を果たせるスタッフであること。

この TEACCH の中でとても重要なのが構造化である。

②構造化とは何か

周囲の人達が自閉症の人達に歩み寄り、自閉症の人達が その場面で何をすればよいのかを理解し、安心し、自立して行動出来るように環境を視覚的に分かりやすく整理、再構成、構造（明確）化し、自閉症の人達の適応能力の不足を補完する。自閉症の人達は、「かも知れない」という予測を立てて行動することが難しく、これから起こる事も予測出来ず、不安で混乱する。視覚優位の自閉症の人達が目に見える形（絵カードなど）で分かりやすく提示し、今何をどうするのかという予測が可能にようにすることである。

いつ：「スケジュール」 ---- 時間に対する構造化

いつ終わるのか、次に何をするのか・・・といったような時間の流れによる変化を、視覚的にわかりやすく提示する。（自閉症の人は、時間という目に見えない概念を理解するのが難しい場合がある。）

その人の認知レベルに応じて、文字やシンボル、写真、具体物などを組み合わせ、目で見て分かるように1日や一週間、1ヵ月のスケジュールを立てる。これによって生活の中で時間的な見通しが立つようになり、安心して目の前の課題に取り組めるようになる。

どこで：「物理的構造化」 ---- 環境を目で見てわかりやすく整える。

環境を物理的に構造化することによって、その場所の意味や目的がわかりやすくなり、物事に集中しやすくなる。自閉症の人は同時に二つ以上の事柄を意識内に捉えること（複数の情報の同時処理）が難しい場合が多いので、なるべく、場所と目的が一対一対応になるようにし、余計な情報は遮断する。場所や物の意味がわかりやすいように、シンボルや写真などを用いて、視覚的な手がかりを与えることが出来る。

何を：「ワークシステム」 ---- 作業課題に対する構造化

何をどのくらいするのか、視覚的にわかりやすくセッティングする。作業のスケジュールを示し、左から右へと流れていく作業、カゴの中が空になれば終わりというふうに分量を示し、次に何をすることも知らせる。

どうするのか：「タスク・オーガニゼーション」 ---- 課題の組織化

どのように行うのかという「方法・手順」をわかりやすく説明するのがタスク・オーガニゼーション。作業課題を分析して、小さなステップに分け、わかりやすく図式したり、

段階ごとの実物をみせたりする。歯磨きやトイレ、手洗いなど、視覚的な手がかり（ジグ）を与えることにより、できるようになる日常行為もある。

③方法

- 1.手を添える
- 2.指を指す
- 3.実物



<http://www2.edu.ipa.go.jp/gz/e1osh2/f-afu1/f-afv1/f-afw1.m>












pg

〈電話をかける〉

〈電話で話す〉

4. 写真



		
らいおん	ぞう	うさぎ
		
りす	とら	さる
		
きりん	うま	うし

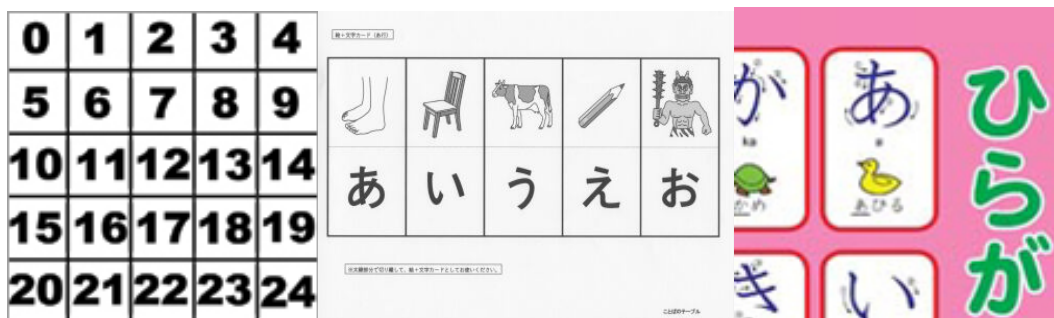
<http://www2.edu.ipa.go.jp/gz/e1osh2/f-afu1/f-afv1>

[/f-afx1.mpg](#)

5. 絵カード



6. 文字カード



7. 言葉

- i. 言葉は 分かりやすい表現でシンプルに伝え、あいまいな言い方（抽象的表現）はしない。
- ii. 否定的な言葉は控える。
- iii. 日常使う言葉は統一する。
(例えば「お箸」と「箸」は違う意味を持っているとってしまう。)
- iv. 手順の示し方は ルーチンを 左から右、上から下 など一定にする。
- v. 一方的に押し付けず、子どもの好きなことや興味があることを探す。

※方法はこれだけではなく、10人障害を持った方がいたら10通りの構造化があるので、この他にも方法は沢山ある。

4. 一人一人に合ったコミュニケーションとは

ノーマライゼーションの原理は、障害者に一日のノーマルなリズムを提供することを意味している。例えば、知的障害者などの障害者が施設で暮らしているときは、決まった時間に起きたり寝たり、食事をとったりしている。それは、適切な支援をするため、障害を持つ人をノーマルに近づけるためである。専門的なコミュニケーションは、障害者支援

においてなくてはならないものである。しかし、このような処遇ばかりでは、自立支援や、人としてのコミュニケーションを養うことはできないと考えている。このように、たとえ重度な知的障害者や身体障害者であっても、関係なく仲間や兄弟よりも早く寝なければならないということはない。また、職員が不足しているかと言って必要以上に早く寝る必要もない。施設であっても、各個人のリズムを保つために、時にはそのグループの日課から外して、個人のニーズに配慮し、支援やコミュニケーションをとっていく必要があると考える。

障害を持つ人をノーマルに近づけるのではなく、その人がいる地域社会、文化のノーマルな生活環境・状況をその人に適した形で得られるようにするのも大事であるとする。このように2つの視点からコミュニケーションをしていく必要があると私達は考える。

参考文献

- ・ノーマライゼーションの原理 普遍化と社会変革を求めて ベンクト・ニリエ 〈著〉
- ・自閉症児のためのTEACCHハンドブック 佐々木正美 〈著〉
- ・アスペルガー症候群(高機能自閉症)の全てがわかる本 佐々木正美 〈監修〉
- ・「気がかりな子」の理解と援助 「児童心理」編集委員会・編
- ・<http://www.picturecardstore.com/> 絵カードのお店
- ・<http://www2.edu.ipa.go.jp/gz/index.html> 情報処理推進機構：教育用画像素材集